

専科一期の会

伊奈学園で皆さんと出会えたことに感謝！

思い出の記



私達のいきいきボランティア活動

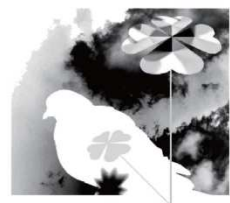


専科一期校友会手話ダンス同好会

私達のニイハオ・ボランティア活動報告



専科一期校友会太極拳クラブ



戦後七十年
平和祈念集

いきがい大学伊奈学園専科一期校友会

目 次

健康づくりコース 5

新井 貞男 伊藤 盛夫 奥山 久子 斎藤志津子 鎮目二三子 高田 忠良
角田 進 塙 恒雄 星澤恵美子 吉澤 愛子

郷土を知るコース 11

相場 恒夫 有村 弘 安藤 允浩 梅田 博 岡田 時雄 岡村 昭則

北氏 和雄 田中 忠 野村 侃滋 八千代幸男

まちづくりコース 17

新井 真弓 石田 孝彦 伊藤 登 内田 純子 大森 勇 久保田圭子

小金沢憲男 瀧澤 正高 田島 許子 玉置 貞明 蔦川 忠義 山田 泰子



山田泰子さんの作品です

ヒヨドリひと際高い声（ハイキングの思い出）

《平成 23 年の晩秋》

新井 貞男

ハイキングの参加者は、いずれも劣らぬ山好き、ハイク好きの精鋭 5 名だった。東武線足利市駅に 9 時過ぎに到着し、足利行道山（石尊山）見晴台に向かった。山道には、大小の岩石が転がり、所々に大きな岩石が天に向かいそそり立っていた。暫くして、今まで霧に霞んでいた空は、俄かに一変…。山道両側の頭上を覆っている木々の枝に雪がいつしか薄っすらと積っていた…。文字通り「枯れ木に花」状態であった。そして、大岩毘沙門天を過ぎ、両崖山（りょうがいさん）に向かった時だった…。木立の上の方から野鳥のさえずりが…。ピーヨ、ピーヨ、ピルル…。

C 子「あら、野鳥の音がするわね。何という鳥かしら」

D 男「ヒヨドリだと思うよ。ほら、あそこの木の枝の所に見え隠れしているシルエットから見てもヒヨドリだよ」

C 子「違うわよ。ヒヨドリはこんなに綺麗な声、出さないわよ」

D 男「いや、今日は C 子さんはじめ綺麗な女性の姿を目の前にして、ヒヨドリ君ボーと
なって、チョッとヨソイキな声が無意識に出てしまった…、んじゃないかな」

C 子「そうかしら。するとあの野鳥、雄かしら」

D 男「当然、そうでしょう。鳥は雄しか囀（さえず）らないし…。」

ここで一句 「想い人 鶉(ひよどり)高く 鳴きにけり」

これは、専科一期の有志で結成した”はくつるの会”のハイキングでの一コマです。本当に楽しかった。皆と一緒に過ごした生きがい大学…。有り難うございました。

専科一期の会を振り返って

伊藤 盛夫

平成 21 年度いきがい大学専科 1 期に入学して 1 2 年間、素晴らしい仲間に出会って楽しい学園生活、校友会活動を送る事ができ感謝に堪えません。

ホームページ委員として校友会の情報を発信すべくネットクラブで講習を受けましたものの、結果的に SPD(シェアポイントデザイナーで HP 立ち上げ)ができず、校友会活動は岡村様にホームページ、メールの無い方は校友会便りとして届けていただきました。1 年間の学園生活と、卒業後のコース活動、クラブ活動等はホームページ等を通して、会員の活動が確認できる大切な情報伝達方法です、発信を継続していただき大変感謝しています。

戦後 70 年「平和記念集」には私たち専科 1 期生が生まれて間もない頃、当時の記憶が記されて、戦争の悲惨さ、恐ろしさ、虚しさが綴られている貴重な記念誌です。

校友会役員は持ち回りのため、27 年度は私が会長職を引き受けることになり、初めての経験なので困惑しましたが、皆様のご支援、御協力が無事に終了することができました。

具体的には企画部主催のハイキング「和紙の里」(5 月)、「論語の里」(9 月)、日帰りバス旅行「ひたち海浜公園と那珂湊お魚市場」(10 月)、「暑気払い」大宮サンパレス(7 月)。学習会(2 月)は「自転車の正しい乗り方」と題して県活の会議室において上尾警察署の担当者からオーバーヘッドを使い、自転車の正しい乗り方の講義を受けました。この事は、人生の 1 ページとして深く心に刻みたいと思います。

大切な宝もの思い出

奥山 久子

令和2年1月6日に谷中七福神めぐり・初詣したのもつかの間、思いもかけないコロナ禍になってしまいました。Home Stay 中、仏壇引き出しの手紙の整理を思い立ち、ひもどくと、専科一期・卒業式の写真。今は亡き栗原さん、星澤さん、熊倉さん、大橋さんと一緒に懐かしい1枚の写真でした。

そして、その日の夜半に、かねてから、療養中の夫が他界しました。悲しみの淵にたたずんでいた私に、心のこもった慰めのお手紙。そして、電話やメールで優しく励ましてくださった方々。今更ながら、級友達のあたたかさに感謝せずにはられません。それらは、私にとって、心のなかの『大切な宝もの思い出』です。

その後、紅葉の美しい平林寺の散策、手話ダンス付きの笑い転げたクラス会など。どのシーンも楽しい賑やかな思い出ばかりです。

シニアは教養（今日用がある）、教育（今日行くところがある）、このエールは現状では足踏み状態ですが、まずは、コロナ収束を願い、専科一期の皆様、クラスの皆様、ご家族の皆様、健康第一をお祈りいたします。

専科一期の絆を深めてくださいました岡村様、あらためて有難うございました。

◆朴の葉裏 ひとこと添えし ありがとう

学園生活を振り返って

斎藤 志津子

いきがい大学へのきっかけは、老後の生きがいを模索している時の学園先輩のヒントでした。入学案内に埼玉の事、ボランティアについて学んだりする事、卒業後は学びを活かすべく地域に還元する様な主旨が書かれていた為興味がわき、どっぷり浸かった家庭生活から一步踏み出し、何年も忘れていた学生になり、何事も新鮮で楽しく刺激的で、個人では余りチャンスが無い著名な先生方の講義、講演会を聞く事が出来、有意義な一時が持てました。学園祭、バザー、懇親会等、久し振りに仲間と協力する事も経験させて戴きました。10年前迄私の中で封印すらしていたパソコン挑戦、生活する中で必要場面が無かったのですが、初めてクラブで教えて戴き、遅まき乍らもヨチヨチ歩きで、情報社会へ少し足を踏み入れ、世界が広がりました。覚えも悪く忘れるのは早かったので、講師には御迷惑を掛け、申し訳なく思っていますが、今はご教示の賜物と感謝致しております。想定外の新型ウイルスコロナ禍で、地域でのボランティア活動は已むを得ず自粛中です。早く終息して復活出来る日が待たれます。何物にも代え難い友達も居て、大きな財産を授かりました。

過ぎ去った10年余り、新しい出会い、絆、多くの学びを戴き、心地よい目覚めとなり、次のステップへとGo! To! それにはまず「健康」の不安を払拭しポジティブに、楽しく、充実した老後を送りたいものです。

「専科一期の皆様に出会えて幸せでした！」

鎮目 二三子

東京育ちの私は、小学校入学前からダンス音楽の舞台を見ながら育ったせいで、お迎え近くなった今でも、その気持ちが全然ぶれず、燃えるハートがあるのです。年齢的に激しい動きはだんだん無理になりましたが、最後に残ったのが手話ダンスでした。いきがい大学専科健康づくりコースに入学し学園祭でのクラス演目として手話ダンスを舞台上で踊る事になりました。この体験がボランティア活動へ発展し今日に至っております。仲間と一緒に踊るだけで幸せなのですが、何の因果か「いきがいの仲間」から所望され指導する立場になり自分でも驚いております。仲間の喜ぶ顔、そしてボランティア先の皆様が楽しむ顔を見ながら、あっという間に12年近い月日が経とうとしています。これから先も少しでも長くボランティア活動が続けられればと思っていましたが、残念ながら手話ダンスクラブも高齢化に伴い会員も減少したこと等から、令和2年の暮れで解散を予定していました。年明けからのコロナ感染症の影響で春からレッスンもボランティア活動も出来なくなりました。それも致し方のないことです。思えば、生まれついで私のたった一つの趣味のつたない芸が皆様のお役に立ち社会参加につながり、身に余る喜びと私の財産にもなり、ここまで皆様に喜んで貰える結果になり、まさに趣味と実益が実ってこの上ない幸せな人生でした。皆様に感謝です。ありがとうございました。

太極拳との出会いに感謝

高田 忠良

私が太極拳を始めたのは入学した当時希望するクラブが成立しなかったため、取敢えずという気持ちで選んだのが太極拳クラブだった。どうせ長続きはしないだろうと思ってスタートしたのだったが途中頓挫することなく楽しいクラブ活動となった、それは、太極拳の健康効果というのは勿論だが、よき指導者と素晴らしい仲間恵まれたのが継続できた大きな要因だったと思う。指導者がクラスメイトということもあって常に和気藹々とした明るい雰囲気の下で気後れすることなく楽しく稽古ができた。初の舞台演武とあって緊張しまくった学園祭に向けての合宿稽古、友情をはぐくんだ懇親会や旅行、ハイキング等楽しい企画もあってあっという間の一年だった。その後は校友会としてボランティア活動発表会、いきいきフェスティバル屋外ステージでの披露に向けて緊張感をもって真摯に稽古に励んだ日々、施設訪問で入所者と笑顔の再会等々沢山の思い出が懐かしく甦ってきます。また、山好きの自分にとってはハイキングや登山に行った際の諸々のエピソードも貴重な思い出です。卒業して12年たった現在も、体力と記憶力の低下と闘いながらも「太極拳同好会はくつるの会」や地域のサークルで楊名時太極拳を続けています。やればやるほど奥が深く感じられ上達はなかなか難しいけど「継続は力なり」という格言を信じて認知症の予防も兼ね今後も心身の健康を求め挑戦し続けたい。

足かけ12年間ありがとう

角田 進

巻末のあとがきに書いたとおり、私は定年退職の3か月前にいきがい大学伊奈学園専科1期に入学し、授業のある月曜日（火曜日のときもありました）は、会社を休んで通っていました。ですから、第二の人生というか、第三の人生というのか分かりませんが、退職後今日まで、いきがい大学とずっと関わってきたこととなります。

健康づくりコースを卒業後は、クラス会代わりに設立された「手話ダンス同好会」に所属させていただきました。何せ踊りは中学の時のフォークダンス以来というなか、覚えるより忘れる方が早い。それでもようやく手の振りが出来てきたと思ったら、今度は足のステップが加わり頭の中が大混乱。1年間は月一の練習で基礎作り、2年目からは月2回の練習と月1回のボランティア訪問を続けてきました。いきがい大学の建学の精神とは言え、まさか自分がボランティア活動をするとは思ってもみませんでした。新型コロナウイルス感染拡大により、令和2年2月から練習会場の確保難、ボランティア先からのキャンセルが相次ぎ、休部状態のまま会の活動終了のやむなきに至ったことはまことに残念です。

今回、専科1期の会の全体活動には一区切りつきましたが、1日も早くコロナ禍が終息し安心してクラスの皆さんと会食等が出来るようになることを願っています。本当に足かけ12年間お世話になりました。これからもよろしくお願いします。

健康コースでの思い出

埜 恒雄

平成21年4月希望に胸を膨らませ、いきがい大学専科1期“健康コース”に入りました。健康コースを選んだ理由は“健康に関する専門的な知識が得られる”との期待がありました。私が期待したのは健康を維持す要素▲体力維持、▲食の改善でした。所が実際の講義はこの要素とはかけ離れた内容で全くの期待外れでした。クラブ活動はテニス、卓球を希望しましたがこれも成立せずがっくりです。そんな中、太極拳クラブ員募集の話があり健康に良いと思い入部しました。太極拳はやって見ると呼吸を整えゆっくりと動く動作で練習が終わると汗びっしょりで心身の爽やかさを感じました。まだ太極拳の型をうる憶えの中、その年の10月には第20回学園祭で太極拳を演舞しました。

これで演舞に弾みが付きその後の3年間で合同研修会2回、ボランティア発表会2回、いきいきフェスティバル2回演舞しました。演舞に自信が付く中、学園方針が“卒業後は社会貢献”を推奨していることやイナ・ヴォイスからの依頼もありデーサービス等の介護施設訪問をする事になり合計31回の訪問を実施しました。介護の皆さんの笑顔がいまだに忘れられません。平成30年指導講師が退任し太極拳同好会とし8名（健康4人、郷土2名、まち2名）で自主練習を開始し皆で太極拳を楽しんでいます。体力の続く限り末長く続けて行きたいと思います。また仲間と共に計46回もの山歩きハイキングをした事も貴重な思い出です。

手話ダンス・太極拳で活動できた私

星澤恵美子

専科一期健康コースに入学して大勢の皆さんとの出会いがあり、その後の私を振り返ってみると、今日までクラブ活動を通して充実した生き方をしてきました。在学時の学園祭での「手話ダンス発表」をそのまま終わらせることなく、卒業後も続けることにして、健康コースの親睦を深め、メンバーの健康維持と地域に貢献することを目的に「手話ダンスクラブ」を立ち上げました。また、健康コースには在学時から太極拳クラブを指導する吉橋さんがいたことから、私は二つのクラブに入って今日まで活動してきました。私と同様に二つのクラブで活躍されてきた栞原八洲子さんが6年前の平成26年12月23日に急逝したことは、私にとって一番のショックでした。その後も2つのクラブで施設訪問をするボランティア活動するという充実した日々が続きましたが、平成28年の途中から太極拳クラブ指導者の吉橋さんが突然お辞めになってしまい、クラブとしてもショックでした。そのために太極拳クラブは、ボランティア顔活動を中止しましたが、自分たちで今でも練習に励んでいます。手話ダンスクラブの施設訪問も新型コロナウイルス感染拡大防止で大きな影響を令和2年2月18日「りふれ宮原」施設訪問が最後となってしまいました。その後、会員の減少や高齢化から今年の12月9日に、手話ダンスクラブも解散総会を開き12年にわたる歴史を閉じました。培ってきた絆をこれからも大切にしたいと思っています。

専科一期の思い出

吉澤 愛子

私は先輩に勧められ伊奈学園の健康コース入学したのが10年前です。このことが今の生活の基本になっています。入学当時は戸惑うことが多く大変でした。午前中の朝の当番、硬い内容の講義等徐々に味わう緊張の連続。しかしそれ以上に良いことが沢山ありました。多くの人との出会いがあり、今までとはがらりと変わる仲間、登校日が楽しみでした。キャンパスライフは共通授業、専科別授業、校外学習、社会見学他盛沢山でした。また公開学習という素晴らしい機会もありました。一番印象にあるのが茂木健一郎氏の脳科学の講義です。さぞ難しい話をされるのだろと覚悟を決めて会場に向かったのですが、実に面白く分かりやすくあつと言う間に時間が過ぎてしまったのを覚えています。

伊奈学園卒業の一番の収穫はパソコンを習得したことです。以前はワープロの生活でしたがパソコンを覚えてからは何と便利なことと感心しています。追加、修正、削除の作業がいつも簡単。現役時代にパソコンと巡り会っていたらさぞかし便利だったのではと思いました。伊奈学園の一年間はあつと言う間でした。沢山のイベントがあり、ひかれたレールに乗るだけで、楽しい時間が多々ありました。友達とも和気あいあいとなり、卒業は嬉しくありませんでした。即、二年制に進みたかったのですが、地元でのクラブと日程が合わず翌々年に入りました。現在でも続いているクラス会活動、校友会活動は楽しい日々の土台になっています。

「充実した日々」

相場 恒夫

「自己実現の欲求」マズローが唱えた人間の最大の欲求。サラリーマン時代、目標を設定する際に教えられました。只、この時点では日々の生活に追われ、特に何かをしたいと言う事もなく、マイホームを建てるとかCMで流れていた「いつかはクラウン」を夢見て仕事を頑張る事位でした。何とかこれをかなえる事が出来た時、この言葉を思い出しました。「自分はどう生きたいのか？」健康と時間を大切に**遊び、学び、奉仕**をバランスよく活動しようと決めました。リタイヤして何か情報は無いかな？と県活に足を運んだら、生きがい大学のパンフレットが目飛び込んで来た。何となく面白そうだった。締め切りが近かったので慌てて応募しました。入学の許可がおり授業が始まった。皆さん頭の良さそうな方ばかり。中にはすでに他の学校を卒業して学生生活に慣れている方もいた。班が形成され、自分は1班になった。皆さん明るく親切ですぐに親しく成れた。内容が解らないまま入った学校が自分の生き方にピッタリだった。学校に行って友達に会うのが楽しい。この刺激が堪らない。皆さんが自分を成長させてくれている。あつという間に卒業になって仕舞ったが、校友会が出来てその繋がりを大事にしてくれた。お陰様でこの10年間は自分の人生で最も楽しい時間だったと思う。改めて皆さん、岡村さんありがとう！

学園が拠点となり今があります

有村 弘

「歴史や文化」・「社会見学や施設見学」に足を運び、皆さんと学習したことは勿論ですが、皆様に出会い、豊かな見識や体験を通されての教えは私の貴重な財産になっています。

また、好きな「クラブ活動」を選べるとあって、運動不足を懸念していたことでもあり健康管理もできると喜んだのを覚えております。直ぐに、卓球部に入れて貰い、気持ちの通じ合った皆の指導のもと、ピンポンに汗を流し親睦を深められ沢山の元気を貰えたこと、以来10年、たまの合宿旅行やハイキングにも一緒できたことも忘れられない思い出です。

さらに、科長・班長に引率され見学した「富岡製糸場」はバス旅行を思わせるような和やかな雰囲気の中親睦を図ることができました。そして「蔵の街川越では喜多院や蔵造り資料館、時の鐘、川越祭り館など小江戸川越の城下町の生業を知る上で忘れられない思い出となっております。特に、「歩くサークル」を主宰された天谷さんと歩いた、県内の「中山道」や「日光街道」を踏破することができ郷土を知る貴重な思い出です。

歩くに当たっては必ず綿密な下調べをされ、安全を第一に気配りされていたことなど忘れられない思い出です。幸せなことに、陶芸や囲碁も習い、現在も俳句とパソコンを教わっております。郷土の皆様・卓球部の皆様思い出を有難う。ご健康をお祈りいたします。天谷さん・斎藤さん 有難うございました。お二人の ご冥福をお祈りいたします。合掌

感謝、感謝、そして感謝！

安藤 允浩

特にこれと言った動機も無く入学した伊奈学園専科コースであったが、ボランティア活動を校是とする学園の在り方、社会との関わりを持つと積極的に活動している学友の姿に啓発されて、自分の生き方がそれまでと180度変化したように思われる。

生来の好奇心も手伝い、それまで関心すら持たなかったことにも手当たり次第にチャレンジをしていった。ほとんどは冷やかし程度に終わってしまったが「絵本の読み聞かせ」だけは妙に波長が合った。結構、厳しかった基礎講座を経て十数名の受講仲間とグループを立ち上げて十年が経つ。現在は、月に二回の勉強会を行い、子育て支援センター、図書館、小児医療センターなどで定期的な活動を継続している。最近は大人を対象にした蕎麦屋と提携した絵本とお話の会やら孫育て講座などにも活動の場を拡げている。

若い時から読書量はそれなりにあると密かに思っているが、絵本と言うものにはこれまで正面からぶつかったことは無かった。それが学園の校是と学友たちの真摯な社会貢献に対する姿勢が怠け者の自分を絵本読み聞かせボランティア活動養成講座の受講へと向かわせてくれたのである。結果として、現在は子供たちの笑顔と自分自身の絵本に対する興味という両輪を与えて頂き充実した毎日を過ごすことが出来ているのである。このような出会いを持てたことに感謝、感謝、そして感謝！

出会いが今でも続く！

梅田 博

平成21年4月、伊奈学園専科一期の郷土を知るコースへ入学した。一年制なので、一年で終了となるが、果たしてどんな授業やクラブ活動があるのか、はたまたどんなクラスメートと出会うのか、楽しみと不安な気持ちだった。入学してみると、大学ほどではないが、きちんと授業があり、しかもクラブ活動も何かに所属せねばならず、朗読クラブに入った。朗読クラブでは、アナウンサー出身の先生に懇切丁寧に教えていただいた。平成22年1月に俳句の授業があり、今は亡き俳人として著名の猪俣千代子先生が講師として見えられた。そこで一時間半みっちり俳句の面白さを語ってくれました。最後にこのクラスに俳句のベテランの梅田さんがいると言うことをおっしゃった。私はそれまで俳句のことはしゃべらなかったので、初めてクラスの皆さんが私が俳句をしていることを知ったと思います。それがきっかけで、何となく俳句ゆめクラブが卒業後に発足しました。同時にそれを聞きつけた町づくりの有志の方にお問い合わせ、俳句遊クラブも発足しました。それ以来現在まで、両クラブとも和気あいあいのうちに、県活センターでの句会、外出しての吟行会、忘年会などを楽しんでいます。これからも俳句クラブを通して、皆さんとの親睦をできるだけ深めていきたいと思っています。

「十年前と今」

岡田 時雄

人の名前が覚えられず心配して入学したら、岡村さんがすぐにメンバーの顔写真と名前の一覧を作ってくれた。この写真は実物より歪んでいたが、お陰さまで短時間に皆さんと名前を呼び合う親しい間柄になれました。10年後、改めて見ると、皆さんの現在の顔が歪んだ写真にそっくりになっているのに気が付きました。

入学式での本多京子氏の講演では当時の平均寿命が女性 85.99 歳、男性 79.19 歳でしたが 10 年後の現在ではそれぞれ 87.45 歳、81.41 歳で 1.46 歳、2.22 歳も伸びている。そして NHK 気象予報士の平井信行氏の講義での当時の最高気温は熊谷で 40.9 度、10 年後の現在では同じ熊谷で 41.1 度と 0.2 度上がっていて環境の変化を感じられる。

バス旅行では富岡製糸場見学に行きました。当時はまだ資料的には整備されていませんでしたがその価値には驚かされ、その 5 年後に世界遺産に登録されて納得しました。

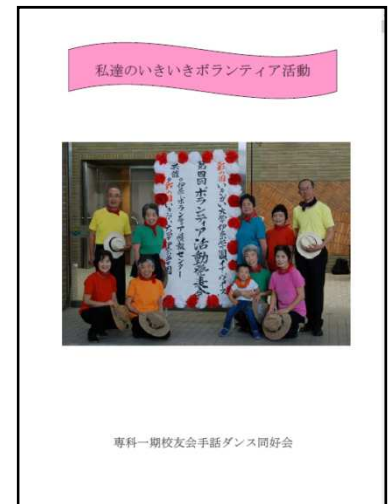
学園祭では 5 回の事前打ち合わせや練習を行い、寸劇「振り込め詐欺防止」と防止の歌唱指導と合唱を行いました。未だ振り込め詐欺が減らない状況を憂えています。

講義の「俳句を楽しむ」では講師の猪俣千代子先生の歯切れのよい楽しい指導で、多くの方を俳句の虜にしたのが印象的だった。そして、同期の梅田博さんに後を引き継いで頂き、現在も「俳句ゆめクラブ」として継続しているのも両先生のお陰だと感謝しています。

私のここ一番の思い出

岡村 昭則

私が認知機能の衰え出した妻のリクエストの旅として熊野古道に出掛けた。その旅行記を読んでいただき、感動したことを話してくれた栞原さんの突然訃報に接して振り返ると、栞原さんには専科一期校友会ホームページの立ち上げに参加していただき、ホームページ委員として、「手話ダンス同好会」及び「太極拳クラブ」の活動報告を送っていただいたことや、私個人としても栞原さんのホームページ立ち上げをお手伝いしたので、ホームページで栞原さんの生きた証を何か残せないかと考えていた。そんな折に手話ダンス同好会の角田さんから平成 28 年最初の「手話ダンス同好会」活動記録と活動も 7 年目に入りましたとメールが送られてきた。それを HP に掲載しながら閃いたのは、今は「手話ダンス同好会」の会員も少なくなっていたが、伊奈学園建学の精神（ボランティア携わる人の養成）に基づいて専科一期生健康づくりコースのほとんどの会員が参加した「手話ダンス同好会」の踏み跡を作っておけば、それを見たどなたかが栞原さんのことを思い出してくれるに違いないと思ったことや、ボランティア活動を支えている、鎮目さん、角田さんをはじめとする会員の方々に敬意を表すためにも、HP に掲載した記事をベースにして「手話ダンス同好会」活動記録を作ったことが一番の思い出でもある。



旅行もダンスも“宝物”

北氏 和雄

2001年9月、40年間勤務した会社で定年を迎えたが、21世紀に向けて制度化された再雇用に応募し嘱託としてそれまでの仕事を1年間継続してこなし2002年9月末に実質定年退職となった。

退職をして自由時間が増えた当初はカルチャーセンターの講座に通いながら、近所の主婦達が楽しんでいる太極拳にも参加させてもらった。最初の時期は新宿や池袋、神田や銀座に通っていたが通う時間があったくないと気づき、その後は県内の講座に通うようになった。そして定年になってから3年後シルバー大学（いきがい大学蕨学園、さいたま市シニアユニバーシティ大宮校）に入学した。在職中から小生は歴史関係（特に世界史）に興味を持っていて、海外旅行も中国からローマへ通じる“シルクロード”に関係する国や地方へも、仕事に差し支えない程度に時々出かけた。旅行先で見る古代遺跡、特に城や墓などの旧跡にはワクワクして何回もカメラのシャッターを押すことがあった。これらの遺跡は二千年以前から中世にかけて造られた大変貴重な世界遺産であることを思うと、足で踏みしめ手で触って昔を偲んだ。さらに現地ではその地方の人達が歌や踊りで歓迎してくれて楽しい一時を過ごすことが出来、日本には味わえない多くの事柄に触れることが出来た。さらに「この一時は今でしか味わえないのだ。」と思うと“この一時を大事にしなければ。”と自分自身に言い聞かせた。

この体験は自分にとって“大きな宝物”となり、在職中ではあったが「この時期に思い切って実行に移して良かった。」と思うことがしばしばである。そういう点では定年退職後に新たな出会ったであったシルバー大学の人達との交友は、もう“一つの宝”であると感じたている。蕨学園や伊那学園、シニア大宮校での学習も緊張感を持って対応したが、学習後のクラブ活動も形は異なるシルバー人生の一角を形作っていると感じている。特に小生の場合は「社交ダンス」に触れる機会が出来たことである。まだ二十歳そこそこの時友人に誘われてパーティに参加したこと位しか経験がなかったが、いきがい大学蕨学園の“ダンス友の会”の十五年と、伊那学園の懇親パーティへの参加、県連協の“ダンスの集い”での発表の体験はとても貴重なものであった。



今はコロナウイルスの感染の関係で、海外旅行はもとより身近な社交ダンスも休業状態になっている。まだまだ自分の身体は動くことも出来るので、必ずや旅行やダンスの機会が到来すると信じている。



R元年10月27日、郷土コース事業の浮きウキフェステ2019で実行委員長されている田中さんとお会いした時に、手術が出来ない末期の胃がんであることを打ち明けてくれました。それを聞いた途端に私の足が震えたことは言うまでもありません。

それから毎日のウォーキングの度に近くの薬王寺で一日でも長く生き延びてと祈願するとともに、毎月、電話をして励ましてきました。12月も励ましにと思って、募集して締め切った「思い出の記」を12/21に印刷し、すぐ製本して送付しましたが、既に旅立っており、遺稿文となってしまいました。まことに痛恨の極みです。

伊奈いきがい大学

専科1期OB会10周年

田中 忠

OB会の皆さんの努力で専科1期校友会は10周年となりました。定年後の空いた時間の使い道やボランティア活動に興味を持つなど、動機や経歴が全く違う見ず知らずの方々が講義や見学会、行事などを通して交遊が深まり、OB会発足後も活発な活動を継続しました。楽しい体験をたくさんさせていただきました。そのなかで人一倍努力を惜しまず心を尽くしてくれた方が岡村さんです。感謝申し上げます。学園で驚いたのは学生証がある事とクラブ活動が必須であることでした。文字どおりいきがい大学でした。

私はこの10年で地元の自治会活動から趣味を深める活動を楽しみ充実した時間を過ごすことが出来ました。現在は全て退任し、唯一残された盆栽を楽しんでいます。昨年10月胃がんでステージ4とのことで手術は出来ず、抗がん剤治療となり3週間の入院となりました。12年間認知症の妻を世話してきましたが、副作用により介護が出来ず現在は特別養護老人ホームにお願いしています。振り返ると、いろいろなことがありました。この10年皆さんにも良いこと、悪いこといろいろあったと思います。コロナ禍のなかですが、残りの人生を有意義に過ごしたいと思っています。

「専科一期校友会初代会長・四代会長を務めました田中忠さん（郷土知るコース）が十二月十九日不治の病で逝去されました。私達の専科一期校友会が今日まで続いているのは、田中さんが校友会最初の理事会の挨拶で「専科一期校友会は、伝統を作るという役目が否応になくあります。学園の皆さんからも注目されていることでしょう。荷が重いと思いますが、みんなでその役目を果たしていきます」に始まっています。途中での校友会の改革では東京オリンピックまで続けようとの提案もあり、その実現に向けて会員一同がまとまり今日に至っています。田中 忠さんにはこれまでお付き合いいただいた友情に感謝し、最後に田中忠さんの御霊の永遠の安らかなことを祈りつつ「★オリオンや優しき君を忘れまじ」と一句添えて追悼の言葉とします。合掌 専科一期の会 岡村昭則

伊奈学園が第二の人生を作ってくれた

野村 侃滋

ごく一般的な会社と自宅を行き来するだけの今思えばなんと味気ない生活だったが、会社人生を終えるころ受けた第二の人生設計のレクチャーの中で「会社から離れ地域に入れ」が妙に頭に残った。地域活動を始めするにはと探したのが伊奈学園だった。入学したのが専科1期であった。ここでいろいろな人と出会いと郷土の歴史などの知識を得、仲間との共同活動、ボランティア活動などを体験した。とにかく仕事一辺倒だった会社生活から180度変わった人生を知ったのだ。

特に忘れられない出会いの人が二人いる。一人は埼玉県警白バイ勤務だった斎藤晃さん。入学当時尻込みするみんなの中率先して仲間づくりの先頭に立たれた。七味作りに長け私も頂いた。もう一人は天谷範夫さん。散策クラブを立ち上げ県内各地を案内していただいた。私の第二の人生の生き方を教えてくださったお二人のご冥福をお祈りするばかりです。伊奈学園の仲間も全員個性的で多種多様な趣味や能力の持ち主で、自分の考え方や活動の仕方など会社生活とは違う生き方をそれぞれから学んだ。

卒業後も学園で出会った人々とのつながりは今も続いている。そして学園で得た地域活動のあり方の知識から、現在は町内会会長、登山市民活動団体の会長、市内小学校の放課後教育や県内シニアなどへパソコンを指導、古文書整備など活動を広げてきている。伊奈学園のおかげで第二の人生の味を楽しみながら忙しく過ごしている。学園に感謝！

思い出の記

八千代 幸男

専科1期・郷土を知るコースの卒業時にクラスの梅田さんに俳句クラブ立ち上げを相談依頼し発足の運びとなった。(当時は梅田さんが社団法人俳人協会前会長の鷹羽狩行さんの門人で既に句集『栗橋』も出されているとは全く存じ上げず後で知り恐縮し汗顔の至りでした) 郷土クラスより俳句クラブ入会者を募り3月に名称を「ゆめクラブ」と命名し19名でスタートした。小生を含め大多数が未経験者のため梅田先生より基礎の基本から教えて戴き月1回の句会(隔月吟行)を重ね紆余曲折を経て今日まで10年間継続している。吟行では四季折々の変化を感じる場所を担当幹事が選び訪れ、日本人で良かったと実感する事多く、これも俳句を続けている背景ありと自賛している。「ゆめクラブ」は和気あいあいと肩肘張らずに活動しており毎月の句会参加率も9割と高く全員参加の句会も多い。忘年会、暑気払い、句会後の反省会(?)等もあり夫々が生き生きと活動出来ていると思料する。これも偏に梅田先生の指導力、人間性、忍耐力のお蔭とメンバー全員感謝です。専科の仲間とはクラス会、校友会、クラブ活動等を通じ連帯感があり卒業後も親しくお付き合い出来ている。専科の連帯感や岡村さんの広報活動を含めたご努力に起因する、生きがい大学全体及び社会の幅広い情報、啓蒙等多岐に亘り参考になる事項を多く提供、案内戴き深く感謝申し上げる次第です。最後に校友会皆様の健康を祈ります。

学園の思い出

新井 眞弓

一番の思い出は、学園祭です。舞台に立つまで練習を何回も実施しました。幼稚園生から老人になるまでの人間の一生を顧みる劇でした。クラスメートの一人が脚本、演劇指導を担当してくれました。

私は、女学生の役で男子学生に憧れて他の女子学生と張り合うという、私としては考えられない役回りでした。私自身の人格を押し殺し役になりきって、演ずることが出来ました。舞台上で演じることの気持ち良さをちょっぴり感じました。もう十年以上前のことなのに楽しかったことはよく覚えているものです。

卒業後も、卓球、俳句など何年かは、県活に行く機会はありましたが、現在は一ヶ月に一回は俳句「遊」で通っています。

いままでいろいろな方と接してきて見習う点、多々ありました。だんだん接点が少なくなってしまうのは仕方ないことだと思いますが、寂しいです。

専科1期生の思い出

石田 孝彦

専科1期生を卒業して早くも10年が過ぎた。今改めて当時を思い出す。定年退職後何をしようかと考えている時、いきがい大学のことを知った。その頃私は地域の自治会活動をしており「地域活動について広く知識を得たい」がまちづくりコース志望の動機であった。学園では講義と校外施設見学や体験学習、社会見学会、公開学習、クラブ活動など多彩な内容であった。体験学習の渋うちわ作りや社会見学会の富岡製糸場は特に印象深い。

クラブ活動では陶芸クラブ。陶芸は初めてであったが、同好の友と共に講師の指導のもと自分だけの器を作り、釉薬を施し本焼の窯の扉を開けた時の感動はこの上ない思い出。

学園祭を思い出す。学園で最大のイベントだ。クラス単位で何か演技をしなければならぬという。皆で話し合いの結果、合唱が良いということになり、題名を「日本の四季」とした。それからの登校日CDラジカセを持参し、昼休みに全員で練習をした。女性の皆さんに考えていただいたそろいの衣装で舞台へ。指揮者に合わせて4曲合唱。全員の呼吸がピタリと合い大成功。クラスの和と絆が一段と強くなった学園祭は大きな思い出だ。

学園では多くの友と出会った。皆親切な人ばかり。挨拶をし何かと語り合う。学園に行くのが待ち遠しくなった。校外学習の後の懇親会も楽しかった思い出である。友に感謝。

「いきがい大学」は閉校してしまっただが、私たちには大きな思い出として残っている。

埼玉いきがい大学での思い出

伊藤 登

私は高校卒業と共に国鉄に入り40数年間勤務し60歳で退職して、それ以後JRの孫会社に8年間勤務し退職後、埼玉いきがい大学「鷲宮学園」「伊奈学園専科一期」「伊奈学園第21期美術工芸科」と4年間いきがい大学で学び、人間形成には最高の場所で先生及び学園の仲間には感謝しています。

現在は「新型コロナウイルス」が、世界各国及び日本全国中が大変な状況です。これを防止には「マスク」着用それに「3密」を守ると共に、専科一期岡村広報部長様がパソコンのメールにて綿密に毎日のように発信頂き参考にさせて頂いており、本当に有難うございます。本当に頭が下がります。誰しも高齢者になるので3密を守り長生きの道を求め頑張りましょう。人生は山坂多い旅の道で長寿の心得を守りましょう。

●還暦 60歳でお迎いの来た時は只今留守と云へ ●古希 70歳でお迎いがの来た時はまだまだ早いと云へ ●喜寿 77歳でお迎いの来た時はせくな老楽これからと云へ ●傘寿 80歳でお迎いの来た時はなんのまだまだ役に立つと云へ ●米寿 88歳でお迎いの来た時はもう少しお米を食べてからと云へ ●卒寿 90歳でお迎いの来た時はそう急がずともよいと云へ ●白寿 99歳でお迎いの来た時は頃を見てこちらからボツボツ行くと云へ 専科一期の皆様白寿以上長生きの道を求めて頑張りましょう。気(きはながく)心(こころはまるく)腹(はらたてず)口(くちつつしめば)命(いのちながかれ) ◎専科一期の皆様変わらぬご指導をお願い致します。

いきがい大学伊奈学園の思い出

内田 純子

卒業して、もう12年この間に得たものは仲間です。入学当初はとても不安でしたが、今思えばたくさんの方が出来た事です。卓球、グラウンドゴルフ、ハイキング、ゴルフ等古稀を越えてまでも楽しい毎日を送っています。愛犬2頭、ひ孫も2歳になりとても癒されています。コロナに負けずこれからも健康に気を付け、日々元気に過ごしたいと思っています。

役員の皆様、大変お世話になりました。ありがとうございます。



「専科一期の会」の思い出

大森 勇

いきがい大学では専科一期（平成22年入学）、2年制（平成23年入学）、専攻科5期（令和1年入学）と都合4年籍を置きました。奇しくも記念すべき専科一期で始まりいきがい大学最後の専攻科五期も経験しました。専攻科五期ではコロナのため三月初旬から閉校になり卒業式もできず校友会やクラス会も立ち上げられることができませんでした。そんな中で専科一期は一番思い出も深く、愛着もあり仲間もでき楽しい経験でした。

氏家所長がよく言われた「社会貢献」をなささいという方針のもとボランティア活動も盛んにおこなわれ、多くの仲間の皆さんが施設等で活躍されています。私は人前での活動が苦手で県活の出入り口にある花壇の手入れをお手伝いしているだけです。少しはお役に立っているのかなと思っています。

また一人ではなかなか行けない迎賓館や寅さんの柴又、上野動物園見物などで童心にかえり、大宮での懇親会など走馬灯のように思い出されます。

現役時代よりもリタイア後の方が時間の使い方が難しいといわれます。もてあます時間をいかに過ごすか。何もしていなければその時間を捨てているようなものです。私の場合皆さんと知り合ったことで大切な時間を楽しく送らせていただいております。岡村さんや多くの方に支えられてきたこの会がこれからも細くても長く続きますよう願っています

専科一期で素晴らしいで出会いがありました

久保田 圭子

56歳直前までサラリーマン生活を送りました。その後県庁などでアルバイトをしてから2009年4月に61歳でいきがい大学伊奈学園の専科まちづくりコースに入学しました。わずか1年間の学生生活でしたが、そこで地域のコミュニティや相互扶助などの大切さを学びました。学生生活で得た知識や仲間は私のその後の私の人生を変えてくれました。

それまで全く知らなかった俳句を授業で教わり、卒業してからは同期の梅田博さんに主宰役をお願いして「俳句遊クラブ」が発足し、梅田先生の指導の下に現在まで10年にわたり句会や吟行を続けています。またいきがい大学で知り合った仲間とは囲碁やグラウンドゴルフ、ゴルフ等も一緒に楽しんでおりいきがいとなっています。もし専科に入学していなかったら、私の老後はこんなに充実したものにはならなかったと感謝の気持ちでいっぱいです。

専科1期の校友会も東京オリンピックまでとの公約通り続いてきました。これはひとえに幹事役の岡村さんのご尽力によるものでこの「ふみあと」の刊行まで請け負って頂いたことに心から感謝しています。

グラウンドゴルフとの出会い

小金沢憲男

いきがい大学浦和学園卒業を迎えた平成13年3月県大久保合同庁舎の近くの常磐女子高校のグラウンドで24期の方々がグラウンドゴルフをやっていてなかなか面白いスポーツだなあと、思い卒業と同時にグラウンドゴルフ部を立ち上げ初心者の集まりなので先輩達から教を請い始めたのがきっかけです。平成21年伊奈専科1期に入学し、クラブ活動グラウンドゴルフ部に入会を申し込みました。13名でスタートしましたが経験者は2名しかおらず練習場、用具の確保が大変でした。ゲートボール場で練習したことも有りました。卒業後グラウンドゴルフ継続してやりたい人が3人しかおらず3人では活動できないので伊奈学園グラウンドゴルフ愛好会に入会を申込み快く受け入れてもらいました。

平成22年9月伊奈連協のグラウンドゴルフの大会があり専科1期から4名参加。平成23年愛好会で7月「サンレイク草木」のスキー場で合宿練習しましたが急な斜面が多く草が生い茂っていて苦戦しました。平成23年12月頃田中さんから専科グラウンドゴルフ部の創設の話があり平成24年2月創設記念大会を行い1期、2期合計26名参加しました。平成24年9月伊奈連協のグラウンドゴルフ交歓大会があり専科1期より10名参加。平成25年11月専科校友会合同グラウンドゴルフ大会があり29名参加しました。2年間小生がグラウンドゴルフの部長を務め、平成26年から2期の落合さんに変更してもらい現在に至っています。

グラウンドゴルフの思い出

田島 許子

何と言っても私の思い出は、専科1期生として入学し、クラブ活動では5月にグラウンドゴルフ部を立ち上げようと、見知らぬ者同士13名が集まりました。しかし、誰が経験者なのかも判らず、グラウンドゴルフを初めてやる人も多く、どうクラブを立ち上げて行くのかハラハラしていましたが、クラスの小金澤さんと私が経験者であることが判り、話し合いで小金澤さんが部長、私が副部長、庶務に岡村さんをお願いしてクラブを立ち上げました。

初心者の方が殆どなので小金澤さんに「グラウンドテキストゴルフ」を提供していただき、岡村さんが印刷してくださり、全員でグラウンドゴルフの概略を学び練習に入りましたが、道具を持っている人も少なく、私が地元自治会のグラウンドゴルフ用具を借りてきて練習することもしばしばでした。授業終了後、皆でワイワイ楽しく夢中になって来たグラウンドゴルフもあっという間に3月の卒業を迎えてしまいました。

卒業後は、校友会としてのクラブ結成ができず、全員で伊奈学園グラウンドゴルフ愛好会に参加しました。次の年に専科2期生の卒業を待って専科合同グラウンドゴルフ部を創設し、私も参加させていただきました。私も途中で退会しましたが、今は私のクラスメートが中心になって専科合同グラウンドゴルフ部で活躍されているとことを耳にする度に、専科1期生の時の事が12年間も引き継がれてきたことを思うと嬉しくなります。みなさん、何よりも健康です。元気にお過ごしください。

いきがい大学伊奈学園の思い出

瀧澤 正高

私は59歳で退職して、満60歳でいきがい大学伊奈学園の専科一期に入学しました。充実した人生を歩もうと県民活動総合センターの門を叩きました。授業カリキュラムで色々な事を学び、素晴らしい仲間との交流で楽しく通いました。クラブ活動では初めて「墨彩クラブ」に入部して水墨の楽しさを満喫しました。行事の後の仲間との飲み会も楽しく、話が盛り上がり、コミュニケーションには一番です。充実した1年が過ぎ、もう少し学びたいと思い、二年制に進学して3年間お世話になりました。濃密な3年間を有意義に過ごすことが出来たのは私の人生にとってかけがいのない貴重な時間になりました。卒業後も脳の活性化を図る専科俳句遊クラブ、墨の濃淡で景色を描く墨彩クラブ、スポーツを楽しむ専科グラウンドゴルフ部に参加して楽しい毎日を過しています。卒業後いきがい愛の会に入り、ボランティア活動や行事で各地を巡り、過すことが出来て楽しい日々を送りました。

特に「童夢21」ボランティア活動に参加して老人ホームで利用者の皆さんに喜ばれたことが、達成感と心の癒やしになりました。7年間で250回もこなしました。母がアルツハイマー病の認知症になり妻と7年介護して、やっと特別養護老人ホームに入所して、安堵しました。古稀になり、父も骨折して入院中です。老老介護も大変ですが、前向きに生きて行きたいと思います。(両親は今年98歳になります)

専科一期の思い出

玉置 貞明

あつと言う間の10年、思い出も沢山、共有させて貰いました。校友会2年目、予期せぬ会長職を仰せつかった時は重圧を感じました。郷土の田中会長が掲げた「20年五輪までガンバロウ」のスローガンと1年目に敷かれたレールをどのように、色濃く確かなものにしたら良いか頭を抱えたものです。副会長の健康C伊藤さん、郷土C有村さんには本当に助けられました。平成23年度(2011年)の活動を振り返って見る。①第1回ハイキング鷺宮神社(1~2期合同)、②東日本大震災-義援金募集、秋になると③伊奈連Gゴルフ；山崎高三郎さん優勝、④社交ダンスの集い；北氏・岡村・石井・玉置4名参加、⑤イナボイス発表会；手話クラブ参加、⑥バス旅行；松代町の大本営防空壕、真田藩史跡見学、⑦合同研修会；太極拳、手話ダンス演技披露、2012年に入って⑧合同音楽会大宮；1~3期参加、⑨新年会；東天紅59名参加、⑩学習会；「埼玉県の放射能汚染と農産物」出前講演・「食事と健康管理」藤原良江講師など。当時の事が走馬灯のように思い出され、感慨深いです。皆んな10年も若かった時だけに勢いもあり張り切っていたのだと。

校友会が発展して行く大きな基盤となったのは、俳句、手話ダンス、太極拳、卓球、Gゴルフ等のクラブ活動、岡村さんはじめHP委員会の広報活動、健康・郷土・まちづくり等のコース活動です。ホームページは仲間意識を堅く繋いでいると思います。

楽しくボランティアを

蔦川 忠義

平成 21 年 3 月退職を前にこれから何をするかと思案していた頃、偶然大宮で会社の先輩に出会い、自分はいきがい大学鷲宮学園に行っているが君は伊奈学園に行けと進められる。早速調べると何と締切り日は翌日、慌てて応募し、これで当面の暇つぶしが出来たと喜んだ。専科の学園経験は新鮮で楽しく、卒業後も太極拳・俳句「遊」・グラウンド G クラブ等交流が続いている。それと私のボランティア活動の原点は、専科に続き 2 年生の課題学習で発表した「私のまちが好きになる～ふる里の歌・民話を通した地域活性化ボランティア～」である。9 人で発足したボランティア（うち専科 1 卒 7 名）は、平成 23 年 11 月スタートし、地域の公民館・小学校・ディサービス・老健施設等で令和 2 年 2 月迄で 259 回の公演を行っている。小道具と機材（パソコン、マイク、アンプ、プロジェクター、スクリーン）等を徐々に自前で揃え、キャラバン一座の気分で意気揚々である。出し物は、訪問先の方々にも参加してもらい一緒になって盛り上げるものだが、特に寸劇「愛染かつら」は高齢者施設では大うけで「花も嵐も踏み越えて～」の大合唱になる。私たちメンバーの高齢化や老々介護等の事情もあり、現在は 7 名（専 1 期 4 名、21 期 2 名、専攻 2 期 1 名）で活動している。ボランティア活動で学んだことは、自分たちが心から楽しくやらないと誰も楽しくないということである。

「私といきがい大学伊奈学園」

山田 泰子

60 歳定年後、これからの人生をどう生きて行こうかと思って趣味で絵画はやっていましたが、友人が他の「いきがい大学」に入学している事を知り、私も入学して、学びたいと漠然と思って、2 年制の美術工芸科を応募するが、落選してしまい、その一年後、専科の「まちづくり」コースに入学しました。

授業が始まって、話をする事もなく、名前順に座り、「まちづくり」は何をするのか、ボランティアをして、よりよい街づくりをするためのコースかと思ってやっていました。

一年であったが、だんだんと仲間と会うのが楽しく、クラブ活動も墨彩クラブに入部し今でも続いている。途中から俳句クラブと卓球クラブに入部する。俳句は毎月一回頭の体操でやっているが中々難しい。卓球クラブは年一回の合宿、旅行が楽しい思い出が沢山ある。夜の宴会では、余興が楽しく忘れられない事が一杯ある。本当に仲間はいいなあつくづく思う。今も伊奈学園に入学した事で仲間が増へ、ボランティアもやっっているいろいろな出会いがあり、自分を成長する機会を得たと思っています。